

魚種（海域）：キチジ（道東太平洋海域）

担当水試：釧路水産試験場

要約表

評価年の基準 (2014年度)	資源評価方法	2014年度の 資源状態	2014～2015年度 の資源動向
2014年1月1日～ 2014年12月31日	漁獲量	中水準	横ばい

*生態については、別紙資料「生態表」を参照のこと。

1. 漁業

(1) 漁業の概要

道東太平洋海域のキチジは主に沖合底びき網漁業、えびこぎ網漁業、刺し網漁業によって、水深200～800mの陸棚斜面で周年漁獲されている。

・沖合底びき網漁業：6～8月の休漁期間を除き、周年漁獲している。近年の主な漁場は広尾沖～釧路沖である。操業隻数は1980年代前半には40隻前後であったが、現在は13隻（オッターロール4隻、かけまわし9隻）である。

・えびこぎ網漁業：1～2月の休漁期間を除き、周年漁獲している。近年の主な漁場は広尾沖～釧路沖である。操業隻数は1970年代には20数隻であったが徐々に減少し、2013年には3隻となり、さらに2014年中に2隻になった。

・刺し網漁業：近年の主な漁場は根室半島太平洋側である。

(2) 現在取り組まれている資源管理方策

現在、具体的な資源管理方策は行われていない。

2. 評価方法とデータ

・漁獲量

沖合底びき網漁業の漁獲量には北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計年報の中海区「道東」を使用した。えびこぎ網漁業の漁獲量にはえびこぎ網漁業漁獲成績報告書を使用した。刺し網等、その他沿岸漁業の漁獲量には漁業生産高報告（1985～2013年）及び水試集計速報値（2014年）を使用し、十勝・釧路・根室各振興局管内（根室管内は根室市のみ）を集計した。

・漁獲努力量

公式統計により努力量が明らかな、沖合底びき網漁業について集計を行った。集計には、北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計年報に基づく科学計算結果（北海道区水産研究所提供資料）から標準化された曳網回数を使用した。

3. 資源評価

(1) 漁獲量および努力量の推移

沖合底びき網漁業の漁獲量は1985年には365トンであったが、その後減少が続き、1994～2012年は113トン未満で推移した。2008～2011年は7～25トンと低迷したが、2013年に148トンに増加し、2014年は143トンであった(表1)。えびこぎ網漁業の漁獲量は1985年には207トンであったが、その後減少が続き、1990年以降は98トン未満で推移している。2000～2010年は14～30トンと低迷したが、2011～2013年は若干増加し39～58トンとなり、2014年は36トンであった(表1)。その他沿岸漁業の漁獲量は1985～1996年には190～393トンの範囲で変動していたが、1990年代後半に減少し、2001年以降は91～155トンで推移している(表1)。2014年は104トンであった。

沖合底びき網漁業の漁獲努力量は1980～1991年には10.8～17.7千網であったが、1992年以降は大きく変動しながら減少傾向で推移した。2012年は2.3千網だったが、2013年に5.8千網、2014年網に6.7千網に増加した(図1)。

(2) 現在(評価年)までの資源状態

道東海域におけるキチジの漁獲量は、1980年代の高水準から減少し、1990年代には中水準、2000年代に低水準へと減少した。しかし、2011年以降増加に転じた。

資源が増加した要因としては、北海道区水産研究所のトロール調査では、2005年に体長モードが90mmであった豊度の高い年級群が毎年10mmずつ大きくなり¹⁾、この年級の成長によるものが大きいと考えられる。

(3) 評価年の資源水準：中水準

道東太平洋海域における漁獲量の合計値を資源状態を表す資料とした。漁業者および現場担当者の感覚に合わせるため、1985～2004年の20年間における平均値を100として、100±40の範囲を中水準とし、その上下を各々高水準、低水準とした。

2014年の資源水準指数は61となったため、中水準と判断した(図2)。

(4) 今後の資源動向：横ばい

近年豊度が高い年級群が加入したと考えられており、資源が大きく変動することはないと判断される。よって、資源動向は横ばいと判断した。

4. 文献

- 1) 濱津友紀：平成26年度キチジ道東・道南の資源評価。平成26年度我が国周辺水域の漁業資源評価第2分冊。東京。水産庁増殖推進部・独立行政法人水産研究センター。973-986(2015)

表1 道東太平洋海域におけるキチジの漁業別漁獲量（単位：トン）

年	沖合底びき網	えびこぎ網	その他沿岸漁業*			合計
			十勝	釧路	根室	
1985	365.4	206.6	37.5	22.0	333.6	965.1
1986	286.5	207.0	12.3	23.7	162.9	692.3
1987	257.8	159.3	14.8	11.7	244.1	687.7
1988	298.3	132.4	11.4	64.5	348.5	855.2
1989	203.5	109.8	4.2	16.2	294.7	628.4
1990	161.8	97.5	2.6	24.4	162.5	448.8
1991	146.2	84.0	2.3	23.5	229.6	485.6
1992	138.7	83.0	3.3	154.8	289.7	669.5
1993	126.3	79.9	3.8	40.1	258.3	508.4
1994	85.2	69.4	6.0	46.4	236.5	443.5
1995	88.5	81.2	7.3	221.1	223.2	621.2
1996	113.1	74.5	5.5	8.3	180.6	382.0
1997	94.4	75.7	2.7	14.1	169.7	356.6
1998	53.5	66.5	0.3	0.1	142.9	263.4
1999	36.8	44.4	8.5	0.2	170.0	259.9
2000	19.5	24.2	1.9	0.3	162.0	208.0
2001	54.2	20.6	2.3	0.1	127.7	204.8
2002	68.4	24.8	7.3	0.5	147.5	248.4
2003	33.1	21.4	12.9	0.9	103.7	172.0
2004	61.1	14.3	49.5	0.7	91.5	217.2
2005	50.0	29.4	2.7	0.8	114.2	197.0
2006	44.3	28.8	0.4	0.1	111.6	185.2
2007	50.8	26.0	4.7	0.2	106.6	188.4
2008	7.3	21.8	0.4	0.3	90.3	120.0
2009	24.7	30.2	0.4	0.2	104.9	160.4
2010	23.3	23.9	0.3	0.3	96.3	144.1
2011	22.8	52.1	0.4	0.3	107.9	183.6
2012	65.2	57.8	0.6	0.4	136.7	260.7
2013	148.7	38.7	0.5	0.3	112.0	300.2
2014	143.2	36.4	1.0	0.9	104.0	285.5

* 根室振興局管内は根室市のみを集計、大半は各種刺し網漁業により漁獲されている

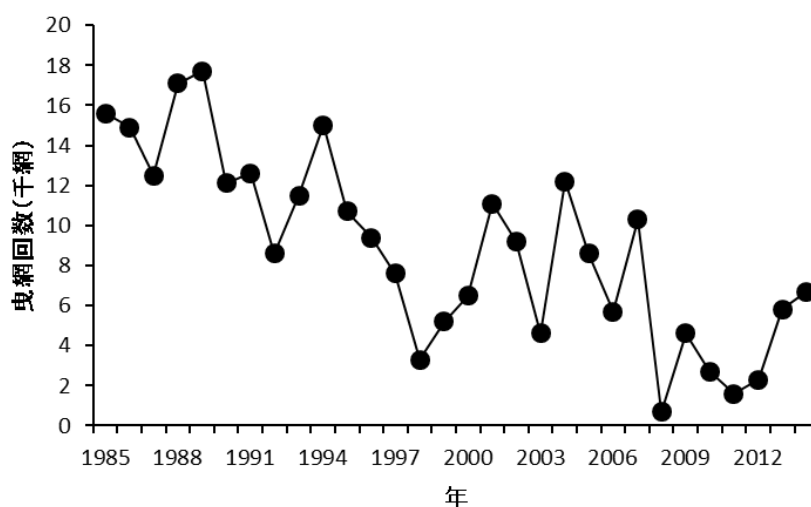


図1 道東太平洋における沖合底びき網の漁獲努力量
（沖合底びき網は標準化された有漁曳網回数）

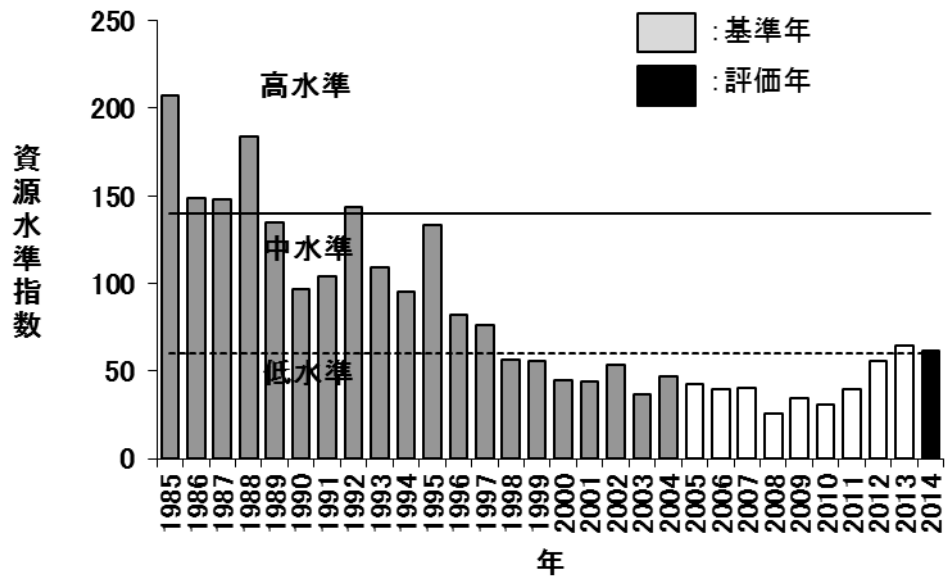


図2 道東太平洋のキチジの資源水準
(資源状態を示す指標：漁獲量)

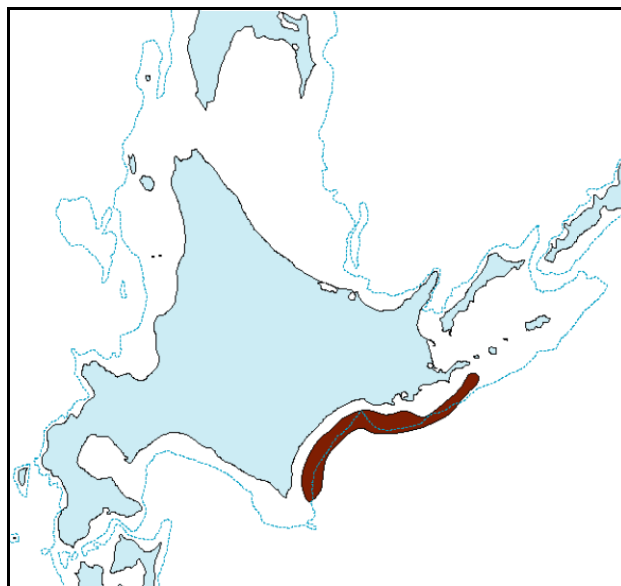
生態表 魚種名：キチジ 海域名：道東太平洋海域

図 キチジ（道東太平洋海域）の漁場図

1. 分布・回遊

大陸棚斜面の水深150～1,200mに分布し、特に200～600mの水深帯に多い。比較的浅海域では若齢魚の割合が高い。大きな移動回遊は行わず、根付性が強いと考えられている。

2. 年齢・成長（加齢の基準日：4月1日）

(4月時点)

満年齢	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
体長(cm)	6	10	13	16	18
体重(g)	6	25	60	100	150

(濱津・服部¹⁾より)

3. 成熟年齢・成熟体長

- ・オス：3～4歳から成熟する個体がみられ、体長20～21cm以上で半分以上が成熟する¹⁾。
- ・メス：体長16cm、3～5歳から成熟する個体がみられ、体長26～27cm以上、6歳以上で半分以上が成熟する²⁾。

4. 産卵期・産卵場

- ・産卵期：3～5月、最盛期は3～4月と推定されている¹⁾。
- ・産卵場：襟裳岬沖・釧路沖・落石沖の山状の地形の周辺（水深400～850m）である¹⁾。

5. その他

卵は浮遊性の卵塊として産み出される³⁾。

6. 文献

- 1) 濱津友紀・服部努：キチジ（太平洋北海域）. 漁場生産力変動評価・予測調査報告書（平成13-17年度）. (2002-2006)
- 2) 濱津友紀：道東太平洋海域におけるキチジの春季の成熟度と孕卵数. 漁業資源研究会議北日本底魚部会報, 26.33-39 (1993)
- 3) 深滝弘：太平洋北西部から採集されたキチジの浮性卵囊. 日水研研報, 11, 91-100 (1994)